

勾玉についてみてみよう!

「春日市文化財ガイドブック なるほどかすがの文化財」も参考にしてみよう!

まがたま 勾玉ってどんなもの?



勾玉は、弥生時代や古墳時代に盛んにつくられたアクセサリーです。小さいものは1cmくらいのもから、大きいものでは十数cmもあるものもあります。勾玉をつくるために、土や石、ガラスなど様々な材料をつかっていました。勾玉の多くは美しい石（ヒスイ、めのう、滑石など）でつくられています。



勾玉ってきいたことはあるけれど、どんなものでつくられていたの?



(複数回答可)

勾玉はどんな人がつけていた?

実は、勾玉はかざられた人しかつけることができませんでした。権力をもった王様やお祭りや儀式をする人たちだけでした。一般の人たちは勾玉を身につけることができませんでした。



勾玉は何のためにつくられたの?

それは力を表すためであったと考えられています。大昔の人々はアクセサリーで自分の強さをまわりに知らせていました。また、勾玉にはお守りや魔除けのような役目もあったと考えられています。



勾玉はどうやってつくったの?

勾玉には大きく分けて2つの作り方があります。1つは石を削って作る方法です。2つ目は鋳型を使う方法です。細かくしたガラスを火にかけてドロドロに溶かして、型に入れて勾玉を作っていました。春日市でも勾玉の型が見つかっています。



←石を削ってつくる



▶型に流し込んでつくる

ふくしゅう
復習して
みよう!



①どんな人がつけていた?

権力を持った ()
() や儀式をする人

②何のためにつくられたの?

() を表すため
() や魔除け

③どうやってつくったの?

() を削ってつくる
鋳型に () を
流し込んでつくる